



本資料は、米国アッヴィ社が2022年2月2日(米国時間)に発表したプレスリリースを一部、日本語に翻訳し、2022年2月8日(日本時間)、皆さまのご参考として供するものです。本資料の正式言語は英語であり、その内容および解釈については英語が優先します。本資料(英文)については、[www.abbvie.com](http://www.abbvie.com)をご覧ください。なお本文中には日本未承認薬、未承認適応症に関する情報が含まれています。

## PRESS RELEASE

2022年2月8日

### アッヴィ、2021年第4四半期および通年の業績を発表

- 2021年度の希薄化後1株当たり利益(EPS)はGAAPベースで、137.1%増の6.45ドルでした。調整後希薄化後EPSは、20.3%増の12.70ドルでした。
- 2021年度の売上高は、GAAPベースで22.7%増の561億9,700万ドルでした。調整後の売上高は、561億2,200万ドルでした。
- イムノロジー(免疫)領域の2021年度の売上高は、報告ベースで14.1%増、営業ベースで13.5%増の252億8,400万ドルでした。ヒュミラ®の米国での売上高は、7.6%増の173億3,000万ドルで、米国外ではバイオシミラーの影響により、報告ベースで9.6%減、営業ベースで12.8%減の33億6,400万ドルでした。スキリージ®の売上高は、29億3,900万ドルでした。リンヴォック®の売上高は、16億5,100万ドルでした。
- 血液腫瘍領域の2021年度の売上高は、報告ベースで8.7%増、営業ベースで8.3%増の72億2,800万ドルでした。イムブルビカ®(日本ではヤンセンファーマ株式会社による承認・販売)の売上高は1.8%増の54億800万ドルで、その内訳は、米国内が43億2,100万ドル、米国外が10億8,700万ドルでした。ベネクレクスタ®の売上高は、18億2,000万ドルでした。
- 神経疾患領域の2021年度の売上高は、59億2,700万ドルでした。ボトックス・セラピューティック(日本ではグラクソ・スミスクライン株式会社による承認承継・販売)の売上高は、24億5,100万ドルでした。Vraylar(日本では未承認・未発売)の売上高は、17億2,800万ドルでした。
- エステティクス領域の2021年度の売上高は、52億3,300万ドルでした。ボトックス・コスメティックの売上高は、22億3,200万ドルでした。
- 2021年第4四半期のGAAPベースの希薄化後EPSは2.26ドルで、100%超の伸びでした。調整後希薄化後EPSは13.4%増の3.31ドルでした。
- 2021年第4四半期の売上高は、GAAPベースで7.4%増の148億8,600万ドルでした。
- 2022年度におけるGAAPベースの希薄化後EPSの見通しは、9.26ドル~9.46ドルです。2022年度における調整後希薄化後EPSの見通しは、14.00ドル~14.20ドルです。

米国イリノイ州ノースシカゴ、2022年2月2日—アッヴィ(NYSE:ABBV)は、2021年第4四半期および通年(2021年12月31日終了)の業績を発表しました。

アッヴィの会長兼CEOのリチャード・A・ゴンザレスは、次のように述べています。「2021年は売上高およびEPSともに、当初の予測を上回る二桁増の好業績を達成した年でした。2022年も引き続き好調を維持し、今後も長きにわたり、多様な成長製品、充実した開発パイプライン、そして優れた実行力で、好業績が続くことを期待しています」



## 2021年第4四半期の業績

- 売上高は、報告ベースで7.4%増、営業ベースで7.5%増の148億8,600万ドルでした。
- イミュノロジー(免疫)領域の売上高は、報告ベースで13.2%増、営業ベースで13.3%増の67億4,600万ドルでした。
  - ヒュミラ®の売上高は、報告ベースおよび営業ベースで3.5%増の53億3,400万ドルでした。米国での売上高は、6.0%増の45億5,300万ドルで、米国外ではバイオシミラーの影響により、報告ベースで9.1%減、営業ベースで8.8%減の7億8,100万ドルでした。
  - スキリージ®の売上高は、8億9,500万ドルでした。
  - リンヴォック®の売上高は、5億1,700万ドルでした。
- 血液腫瘍領域の売上高は、報告ベースで4.6%増、営業ベースで4.7%増の18億7,300万ドルでした。
  - イムブルピカ®(日本ではヤンセンファーマ株式会社による承認・販売)の売上高は2.7%減の13億8,500万ドルで、その内訳は、米国内が11億1,400万ドル、米国外が2億7,100万ドルでした。
  - ベネクレクスタ®の売上高は、報告ベースで33.3%増、営業ベースで34.0%増の4億8,800万ドルでした。
- 神経疾患領域の売上高は、報告ベースおよび営業ベースで19.0%増の16億5,400万ドルでした。
  - ボトックス・セラピューティック(日本ではグラクソ・スミスクライン株式会社による承認承継・販売)の売上高は、報告ベースで18.3%増、営業ベースで18.1%増の6億7,100万ドルでした。
  - Vraylar(日本で未承認・未発売)の売上高は、21.8%増の4億8,900万ドルでした。
  - Ubrelvy(日本で未承認・未発売)の売上高は、1億8,300万ドルでした。
- エステティクス領域の売上高は、報告ベースで23.3%増、営業ベースで22.8%増の14億700万ドルでした。
  - ボトックス・コスメティックの売上高は、報告ベースで27.0%増、営業ベースで26.6%増の6億2,600万ドルでした。
  - Juvederm(ジュビダームビスタ®として、アラガン・ジャパン株式会社による承認・販売)の売上高は、報告ベースで30.6%増、営業ベースで29.8%増の4億3,200万ドルでした。
- GAAPベースで、売上総利益率は71.0%でした。調整後売上総利益率は83.6%でした。
- GAAPベースで、売上高に占める販売費および一般管理費の割合は、21.9%でした。調整後の売上高に占める販売費および一般管理費の割合は22.2%でした。
- GAAPベースで、売上高に占める研究開発費の割合は、12.3%でした。調整後の研究開発費の売上高に占める割合は、パイプラインへの投資を反映し、12.1%でした。
- GAAPベースで、営業利益率は34.1%でした。調整後営業利益率は49.3%でした。
- GAAPベースで、純支払利息は5億7,100万ドルでした。
- GAAPベースで、税率は、5.3%でした。調整後の税率は、12.5%でした。
- 希薄化後EPSは、GAAPベースで2.26ドルでした。特定項目を除く調整後希薄化後EPSは、3.31ドルでした。



注意：「営業ベース(Operational)」の対比は、恒常為替レートで提示し、前年の為替レートにより現地通貨売上高の比較を実施しています。

詳細な情報はこちらをご覧ください(英文オリジナル)。

[https://news.abbvie.com/news/press-releases/abbvie-reports-full-year-and-fourth-quarter-2021-financial-results.htm?\\_ga=2.111130757.1412137747.1643780071-2021493786.1636529042](https://news.abbvie.com/news/press-releases/abbvie-reports-full-year-and-fourth-quarter-2021-financial-results.htm?_ga=2.111130757.1412137747.1643780071-2021493786.1636529042)

## アッヴィについて

アッヴィのミッションは現在の深刻な健康課題を解決する革新的な医薬品の創製と提供、そして未来に向けて医療上の困難な課題に挑むことです。患者さん一人ひとりの人生を豊かなものにするため次の主要領域に取り組んでいます。免疫疾患、がん、神経疾患、アイケア、ウイルス、ウイメンズヘルス、消化器疾患、さらにアラガンエステティクスポートフォリオの製品・サービスです。アッヴィの詳細については、[www.abbvie.com](http://www.abbvie.com) をご覧ください。Twitter アカウント [@abbvie](https://twitter.com/abbvie)、[Facebook](https://www.facebook.com/abbvie)、[LinkedIn](https://www.linkedin.com/company/abbvie) や [Instagram](https://www.instagram.com/abbvie) でも情報を公開しています。

## Forward-Looking Statements

Some statements in this news release are, or may be considered, forward-looking statements for purposes of the Private Securities Litigation Reform Act of 1995. The words "believe," "expect," "anticipate," "project" and similar expressions, among others, generally identify forward-looking statements. AbbVie cautions that these forward-looking statements are subject to risks and uncertainties that may cause actual results to differ materially from those indicated in the forward-looking statements. Such risks and uncertainties include, but are not limited to, the failure to realize the expected benefits of AbbVie's acquisition of Allergan or to promptly and effectively integrate Allergan's business, challenges to intellectual property, competition from other products, difficulties inherent in the research and development process, adverse litigation or government action, and changes to laws and regulations applicable to our industry. Additional information about the economic, competitive, governmental, technological and other factors that may affect AbbVie's operations is set forth in Item 1A, "Risk Factors," of AbbVie's 2020 Annual Report on Form 10-K, which has been filed with the Securities and Exchange Commission, as updated by its Quarterly Reports on Form 10-Q and in other documents that AbbVie subsequently files with the Securities and Exchange Commission that update, supplement or supersede such information. AbbVie undertakes no obligation to release publicly any revisions to forward-looking statements as a result of subsequent events or developments, except as required by law.